

上海のカフェ市場

日中経済協会上海事務所大分県経済交流室

(大分県上海事務所所長) 難波 一尚

上海のカフェ市場が盛り上がっています。元々お茶文化がある中国はコーヒー文化と親和性が高いと言われており、特に上海では利用者が多いため様々な形態のカフェがオープンしています。

スターバックスの店舗数は900以上と世界で最も店舗数が多い都市となっています。市内を少し歩けばすぐに店舗が見つかるほどあちこちにあり、どの店舗も多くの客で賑わっています。スターバックスとしても上海や中国市場を重視しており、今後も店舗数を伸ばす見込みです。上海の繁華街、南京西路には世界最大の店舗があります。一般的なコーヒーのほかアルコールが入った限定メニューなども提供されています。店舗内には実際に稼働する大型のロースターを見ることができるので、ビジネス客や買い物客のほか観光客も立ち寄ります。また、ワークスペースを併設した店舗、環境に配慮した店舗など、アジアでも先進的な店舗展開が行われています。

スターバックスなどの従来のカフェの課題を解決する形態のコーヒー店として、瑞幸珈琲 (Luckin Coffee)が中国で2017年に創業され、店舗数を伸ばしています。客席の回転率の低さや価格の高さ、人気店舗では行列ができるといった課題を解決するため、瑞幸珈琲ではITを活用したテイクアウトメインのコーヒー店を展開しています。スマートフォンの専用アプリ上で注文し、画面上に指定された時間に店舗に行くと注文した商品が用意されており、行列することがありません。また店舗には少数のテーブルしか用意されておらず、店舗スペースも小さくなっています。コーヒー豆は世界的なバリスタが監修する品質が確かなものですが、こうした形態による回転率の向上や、家賃や人件費のカットにより商品の低価格化を実現しています。



▲テイクアウト中心の瑞幸珈琲

※写真は上海事務所スタッフ撮影

上海のカフェ市場

日中経済協会上海事務所大分県経済交流室

(大分県上海事務所所長) 難波 一尚

最近勢力を伸ばしているのがManner Coffeeです。元々は2015年に上海の露店からスタートした企業ですが、今や上海で165店舗、他の都市にも進出するまでになっています。瑞幸珈琲と同じくテイクアウトが中心ですが、店舗によっては十分なイートインスペースも確保されています。こちらでもコーヒーの品質を重要視していますが、アメリカンコーヒーが15元（約270円）とスターバックスの25元よりも大幅に安いのが特徴です。



▲Manner Coffeeは急速に店舗数が伸びている

上海で再開発が進む前灘エリアでは2021年に大型商業施設がオープンしました。施設内には蔦屋書店が入店し注目を集めています。蔦屋書店はカフェ併設型の書店。本を読みながらゆっくりとコーヒーを楽しむことができます。上海ではこのように書店に併設されたカフェも人気で、蔦屋のほかにも多くの店舗がオープンしています。

外資系が主流の市場でしたが、最近ではそれに対抗する中国企業も競争力を増しています。ゆっくり落ち着いてコーヒーを飲む、あるいは安く気軽に本格的な味のコーヒーを楽しむなどの選択肢が広がっていますし、競争が激しくなることでよりコストパフォーマンスが良くなっていて、コーヒー好きの中国の消費者にとっては嬉しい状況です。

※写真は上海事務所スタッフ撮影